

平成25年度第2回ひろさき教育創生市民会議議事録

- 1 開催日時 平成25年10月29日（火） 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 中央公民館岩木館 大ホール（弘前市大字賀田一丁目18番地3）
- 3 出席者 委員32人のうち28人出席（代理出席1人含む）
- 4 議事要旨
 - （1）開会
 - （2）あいさつ
 - （3）委員紹介
 - （4）議事
「いじめや虐待の防止に関する取組について」
 - （5）閉会

○内 容

（2）あいさつ

伊藤座長より、「次代を担う子ども達の健全育成の取り組みを推進していくためには、家庭、地域住民、学校、行政が一体となって取り組んでいくことが大切である。

いじめや虐待の根絶、防止に向けて、それぞれの役割を確認し合いながら、本会議として意見をまとめ行政に提言していきたい。」とあいさつがありました。



（3）委員紹介

今回、法律的視点からの意見やアドバイスをお願いするため、新たに委員となった弘前市法務契約課法務指導監 増田幸雄氏を紹介しました。



テーマ 「いじめや虐待の防止に関する取組について」

全体討議

はじめに、事務局より次の内容を説明しました。

- ・第一回ひろさき教育創生市民会議において、討議テーマ「いじめや虐待のないまちづくり」について委員の皆さんが、意見交換や検討した内容について

第一回の会議では、AからDグループの4班に分かれて討議を行い、様々な意見が出されました。

主な意見をご紹介すると、

Aグループでは、「いじめや虐待は、周囲の人が早期に気づくことが大切であり、関係機関と密に協力することが必要である。」「家庭においては、何でも話し合える親子関係を築くことが大切である。」

Bグループでは、「相談を待っているだけでは、いじめや虐待はなくなる。地域の大人は、子ども達と関わる機会を積極的につくるのが大切である。」

Cグループは、「子どもに対する声掛けを積極的に行っていくことが大切である。」

Dグループは、「いじめに関する教育は言葉だけで教えるのは限界がある。トラブルを乗り越えることができる「学ぶ経験、力」を育てる教育も必要ではないか。」など様々な意見が出されました。

そして、最後に座長から「いじめや虐待のないまちづくりは、一つ一つの積み重ねが大切である。

その中で、地域における取り組みがポイントである。

現在、弘前市教育委員会では、16の中学校区を地域として捉えて様々な取り組みを進めている。

まずは、地域における取り組みをしっかりと行っていくことが必要である。

また、教師の育成については、いじめや虐待に関する知識や経験を積めるような授業や取り組みを行っているが、今後、様々な機会を通じて教師の力を高めていくことがより一層必要である。」というまとめがありました。



・現在、弘前市で進めている取組について

(1) 条例施行と行動計画の策定、周知

平成25年4月1日 『子どもの笑顔を広げる弘前市民条例～いじめや虐待のないまちづくりを目指して～』を施行しました。広く市民に啓発するために、リーフレットを作成し每户配布しました。(7万部作成)

(2) 相談窓口の設置(窓口の一本化)

相談支援チーム(弘前市教育センター)が子どもや保護者などからの相談に応じています。(平成24年度相談件数 44件)

(3) 小中連携による「あいさつ運動や言葉をかけて見守る運動」等の実施

あいさつ運動等の取組状況として、8月26日から30日までを強化週間とし、そのうち27日は市内一斉取組日として実施しました。期間中延べ451人の地域の方、保護者、教員及び市職員が参加しました。

(4) 標語、ロゴマークの募集

夏休みに小・中学生から標語・ロゴマークを募集しました。

現在、選考中です。(11月頃に決定する予定です。)

(5) ポスターの掲示

決定した標語、ロゴマークでポスターを作成し、学校や公共施設等に掲示します。

事務局の説明後、座長から各委員に対してそれぞれの団体やグループが行っている「いじめや虐待の防止に向けた取組」や「子ども達の健全育成に関する取組」などを聞きました。

主な意見

- ・今回、教育委員会で新たに取り組んだ「あいさつ運動」は、地区によっては既に行っていたと思うが、全市一斉に取り組んだことは効果があるものと思う。
- ・大人の方から地域の子も達に「声掛け」を行うことが大切である。また、子どもと大人が関わる事業を行っていくことが地域での連携を深めていくことができるのではないかと思う。北地区コミュニティ会議では、そのことを実践し、子ども達との結びつきを強めている。
- ・このような市民会議を通じて、子ども達のことをみんなで考えることが大切であり、情報を発信していくことがこれからは必要だと思う。
- ・地区活動の参加を楽しみにしている子ども達もいる。
地区活動に参加することで、子ども達は地域の方に声を掛けてもらうことや、小さい子の世話をするなど、自己存在を感じたりすることができ、好ましい形となっているケースもある。問題は、このような活動に入ってくるできない子どもたちはどう働きかけていくかが課題である。

- ・子どもの相談窓口が多くあるのは、解決に向けた取り組みとして大切である。
- ・虐待は見つけにくい。子どもは親のことは言わないことが多い。問題化してから明らかになるため懸念している。日ごろからのコミュニケーションが必要であり、大人からの声掛けは、非常に大切である。
- ・放課後や休みの日に地域の方や大学生が子ども達と一緒に勉強したり、遊んだりする機会として、今年度から弘前大学と弘前市教育委員会が一緒に行っている学びの共有空間「Bi・Bi っとスペース」は有効的であると感じている。
- ・子どもは大人の姿を見て育っていく。
他者と共生していく関係づくりを
大人が作っていなければなら
ないのではないか。



休憩後、具体的提案について協議を行いました。

- ・今の子ども達に必要なのは、子ども達がもっと多くの大人との関わりや接する機会を持つべきではないのか。大人が褒めてあげる、叱るなどの声掛けを通じたコミュニケーションが大切である。
- ・新たな活動をはじめるとは、今ある活動をつなげる、点と点から線で結んで面としていく取組が必要ではないか。
- ・子ども達と大人と一緒に活動してうまくいっている取組を、他の地域にも紹介してはどうか。



- ・地域のコミュニティ力をつけることが必要である。

地域が作り上げてきた人とのつながりを今一度振り返り、地域における子ども達を見守っていくことが必要である。



- ・人間関係を育む教育環境が必要ではないか。その中で、ねぷたまつりは良い場面だと思う。目的に向かって、子どもも大人も一緒にねぷたをつくり、運行に参加することは、気持ちを一つにできる。ねぷたに限らず、みんなが積極的に参加できる機会を作っていくことが必要である。

・いじめや虐待を早期に発見する一つの手立てとして、相談する場所としてスクールカウンセラーの配置を拡充してはどうか。また、養護教員の果たす役割がこれからは非常に重要になるのではないか。

- ・弘前大学と市教委が今年スタートした「Bi・Bi っとスペース」に注目したい。

【まとめ（座長）】

いじめや虐待を防ぐ取組は、関係団体や行政において様々行われている。

今日の話合いでは、コミュニティがキーワードではないか。

子どもと大人と一緒に考え、活動できる機会を作り、取り組んでいく一つ一つの積み重ねが大切である。

そして、地域のコミュニティが安定(活性化)するためにも、教育委員会で考えてほしい。

次回会議	平成26年7月（予定）
場 所	未定
案 件	未定

議事録作成：弘前市教育委員会学校教育改革室